

5月18日(土)に成人学校地域研究講座「文学散歩～御岳山・浅田次郎の里を訪ねて」を開催しました。

新緑の爽やかな御岳山は、大勢の人で賑わっていました。文学散歩一行は総勢15人。文学ゆかりの地だけでなく、神社の階段で龍を見つけたり、長尾平でテーブルを囲んで昼食を食べたり、宿で保管されている展示物を見せていただいたり、御岳山の魅力をたっぷり感じる講座となりました。浅田次郎さんの本を読んで参加した方が複数いらっしゃったので、座学との組み合わせの講座も今後検討していきたいです。

講師に御岳山の魅力をお聞きしました。

文学散歩



## 御岳山と私

街で入手した情報誌に秩父多摩甲斐国立公園を扱ったページがあり、次の文に惹かれました。「御岳山から大岳山まで歩き山道のいたるところで信仰の気配を感じた。自然の中に微かな人の気配が混ざる不思議な感覚を味わうことができた」筆者は北海道出身の大学生で登山の経験があるとのこと。澄んだ山の印象を感じる文章でした。御岳山は世界的な登山家田部井淳子さんの登山人生が始まった山でもあります。

「福島から上京して体調を崩したとき、友達に誘われて青梅市の御岳山に登り山が好きになった」と田部井さんは語っています。

長野県生まれの私も上京して最初の登山は、先輩との御岳山、大岳山でした。それから山に没頭する生活が始まり、全国の山に向かい、海外へも少し行きました。ネパールのエベレスト街道では田部井さんが造られたリング畑の下を通りました。60歳で会社の定年を迎えたとき、私の登山を育ててくれた奥多摩の山へ恩返しをと資格を得てボランティアの東京都サポートレンジャー会に入り、御岳山周辺の山の案内や登山道の補修作業などを4年勤めました。



御岳山の山上集落には作家浅田次郎さんが育ち執筆をされた宿や、文豪中里介山が小説「大菩薩峠」の発想を得た神社前広場もあり、散策することの好きな私には興味が尽きません。正月の御嶽神社参拝も34年続けています。雨や雪の日を訪れても、山の空気に触れると清々しい気持ちになることができます。健康に留意し、一年でも多く御岳山に行きたいと私は思っています。

(文学散歩講師 小林)